

現象学的考察の可能性  
——省みることがもたらすもの——

吉田聡（千葉工業大学）

フッサールが提示した現象学的考察の方法とは、私たちが日常的に関わっている物事からそれについての体験へと視線を向け変え、その本質を把握するというものだった。このような方法は、しばしば意識についての主観的記述を与えるにすぎないものと見なされてきた。だがそもそも現象学的考察は、通常の意味での主観と客観との区別を前提として前者のみに着目するという意図のもとでなされるわけではない。またフッサールの（特に後期の）思索の中で扱われる主題の中には、主観的記述のみならず、通常理解されている限りでの現象学的方法の範囲をも超え出るように見える要素が含まれている。そこで、ここではフッサールの後期の思索に着目し、先反省的な自己意識や、人間と動物の本質、世界の中で生きる人間と意識体験との関係といった主題に関する議論を取り上げながら、現象学的考察が自己への単純な反省には留まらないことを明らかにし、その考察方法の新たな側面を提示することを試みる。